

領域名：小児保健看護

報告者：田口 尚子

教育及び実践の課題

現在、小児医療の進歩に伴い日常的に医療ケアが必要な子どもが増加しており、厚生労働省では小児在宅医療を推進するための施策が施行されている。しかし臨床での退院支援は、どの領域においても標準化された指標はなく、ナース個々の知識や支援技術の差が大きい。そのため、退院後を見通した支援はナース個々の力量が影響している。学生達は、臨地実習の中で子どもの退院支援について学ぶ機会が増えてくることが予測される。教員は子どもと家族の退院支援として必要な知識や技術を指導すると共に子どもや家族が在宅で過ごすことに対する「思い」を表出でき、安心して退院できるように支援することも重要であることを伝えていく必要がある。

活用した論文の概要

Jay 等は子どもの退院支援と再入院の関係について理解を深めるため、子どもが退院する際の退院準備性について、退院時の親の認識と再入院の可能性について評価を行った。その結果、子どもの退院時の健康度に対する親の認識が退院後 30 日以内における計画外の子どもの再入院と関連していることが示唆された。この結果から子どもの退院支援では、親が退院時の子どもの健康状態に関する不安がある際にその不安を軽減し、安心して退院できるよう支援することが子どもの再入院するリスクを軽減することができる可能性に繋がると述べている。

教育及び実践への活用

学生達は、臨地実習の中で実際に子どもの退院支援について学んでいる。学生は子どもや家族のベッドサイドで過ごす時間が多く、臨床の看護師よりもご家族からの思いを傾聴できる機会を多く持つ事ができる。その中で、学生は退院後の家族の不安や心配事を引き出そうと懸命に取り組んでいるが、学生自身が退院後の不安や心配事を予測することが困難なため、具体的な不安を表出してもらうことができないことがあった。そこで今回の文献で使用された小児のケア移行調査項目を参考にすることでご家族の不安を予測し、退院支援に取り組むことができた。学生や経験の浅い看護師にとって、このような小児のケア移行調査項目は、現在のナース個々の力量が影響する退院支援において統一した質の高いケアができる一助になると考える。

参考文献

JAY G.Berry,Sonja I. Ziniel,Linda Freeman, William Kaplan, Richard Antonelli, James Gay, Eric A.Coleman, Stephanie Porter. (2013) . Hospital readmission and parent perceptions of their child's hospital discharge, International journal quality in health Care, 25(5), 573-581.
